

2019年度 立命館附属校英語科公開授業研究会-立命館慶祥中高

附属校教育研究・研修センター

2019年9月2日(月)9:25~14:30、立命館慶祥中学校・高等学校において「スピーキング力向上を目指して~心の壁を取り除く~」をテーマとして、研究授業Ⅰ<中学1年英語:Bertram Jordan先生、中村倫生先生>、研究授業Ⅱ<中学3年英語:関谷さら先生>の二つの公開授業を開催した。その後、全体協議(授業及び研究テーマについて)を実施した。参加者数は、長岡京3名、守山2名、慶祥21名、一貫教育部1名の合計27名であった。研究会の実施内容について、以下報告する。

1. 研究目標(テーマ)

スピーキング力向上を目指して

立命館慶祥英語科授業において、様々な言語活動(intake/output等)を取り入れ、生徒の主体的な学習や協働的な学習を進めてきているが、多くの生徒が抱くスピーキングに対する苦手意識を軽減したものにしつつ、難しい言葉や文法を使わずとも、伝えることができる、ということを実感させることで、発信することへの自信や楽しみを見出すために、上記のテーマを設定した。研究協議では、スピーキング活動をテスト等でどのように評価するべきか、中学生では難解な表現をどのようにスピーキングに活かすか、を議論した。

2. 研究授業について

	Bertram Jordan先生、中村倫生先生	関谷さら先生
クラス	中学1年1組 一貫コース	中学3年6組 SPコース
教科・科目	英語	英語
単元	New Treasure Stage1 Lesson6 Communication これはいくら?	New Treasure Stage3 Lesson5 Section1 受動態の発展的用法

<授業担当者のコメント>

(Ⅰ)中学1年1組 英語 中村倫生先生

慶祥英語がまだまだ浸透していない私ですが、英語科の英知と工夫が集結されたパワーポイントの教材を活用させていただき、Jordan先生と通常の授業を行いました。他校の実践や英語科の状況、情報交流、定着のためのアプローチ法など、大変勉強になりました。授業へのご参観、ありがとうございました。



(Ⅱ)中学3年6組 英語 関谷さら先生

このたび中学3年生のNT(文法)の授業を担当させていただきました。たくさんの先生方に授業を見ていただき御助言をいただくことで、自分だけでは決して至ることのできない新たな視点に気づくことができました。この貴重な経験を生かして、私自身の、そして慶祥の英語教育をさらに良くしていきたいと思っています。



3. 全体協議について (司会 米林孝)

昨年度の反省を活かし、今年度は「飾らない普段どおり実践している各授業を公開することで、より再現性が高い授業イメージを参加者が共有しつつ、意見交換の場に発展できるような全体協議にする」点を踏まえて、全体協議が始まった。前半は、授業者によるコメントや参加者からの質疑応答、後半は、スピーキング活動とその評価方法のあり方、スピーキング活動と New Treasure との関係(2 単位のネイティブによる授業と 4 単位の日本人による授業との関係)、New Treasure でのスピーキング活動における反省点、などの意見交換ができた。本研究会の担当校が 2 年単位で回っていくことは、1 年目の公開授業で浮かび上がった反省を改善して 2 年目に実践できてとても有益であった。また、公開授業だからと普段実践しないような授業をすることなく、普段から実践している授業を反省、改善させていくことの大切さ、学力で選抜されたクラス(SP コース)の授業実践だけでなく、ボリュームゾーンに当たるコース(一貫コース)の授業を公開することで、すべての参加者が全体協議で発言しやすい環境づくりとなっていることはとても大切だと実感した。選抜クラス(SP コース)での実践例が、一貫コースに波及することの大切さ、スピーキング活動とそれを他の活動に活かすための関係づくり、6 年間(または 3 年間)をイメージした言語活動の重要性を再認識することができた。New Treasure は全附属校が使用するテキストであるため、今後もこのような附属校で連携して附属校の授業力向上の機会を大切にしていきたい。



《文責 立命館慶祥中学校・高等学校英語科 米林孝》

<参考>～指導案より

◇【研究授業 I】1年1組 37名 T・T

授業者	Bertram Jordan (T1)、 中村倫生 (T2)
単元名	Lesson 6 Communication これはいくら？
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・対話の内容や値段等について、その内容を適切に聞くことができる。 ・食物の注文や、値段をたずねる等の表現を適切に話すことができる。
教材観	<p>NEW TREASUREのテキストは、大学入試で要求される英語力と実社会で求められる実践的英語力の育成、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、論理的思考力、コミュニケーション能力を伸ばすことを基本方針に編集されている。語彙分量も充実しており、内容面についても多分野を偏りなく取り上げ、論理的な思考力を養いつつコミュニケーション能力向上への工夫がされている。レベルの高い教材であるため、生徒の習熟度によりその扱う内容の取舍選択が必要となる。</p> <p>Communicationの単元では、80語程度の会話文や英文を通して、特定の言語機能や日常的な場面と結びついた定型表現、機能的定型表現を習得するため段階的な指導を行う。Lesson6のCommunicationでは、ファストフード店の場面において、注文の仕方や値段をたずねる表現、店内での定型表現を、店員とのやり取りを通して身に付ける。</p>

生徒観	第1学年は、181名在籍。中高一貫コースが3学級、東大・京大・医学部進学へのSPコースが2学級の計5学級の編成である。授業学級である1組は、中高一貫コースであり、将来は立命館大学を希望する生徒が多い。英語の授業は、週4時間のNTの授業で文法を、週2時間のTTの時間でspeakingとwritingを中心に行っている。音声中心の外国語活動から英語科へ、文法、語彙など4技能を統合的に扱う中学校の英語科への転換により、円滑な小中学校の接続も必要とされている。発言も少なくややおとなしい生徒も多く見られるため、心の壁を取り除くよう、間違いへの寛容な雰囲気づくりに努めている。成功体験の累積、speakingを中心とした楽しい活動の工夫による興味・関心の高揚、4技能の定着が求められる。
指導観	本単元で身に付けさせたい力は、ファストフード店における値段のたずね方、答え方ができるようになること。食べ物を注文できるようになることである。買い物場面は、日常と結びついた生徒がイメージしやすい学習内容であり、第3学年時のニュージーランド研修でも実際に必要とされる場面となる。新出の語彙やドル通貨の値段について、パワーポイント等で繰り返し音読し、実際の場面を想定したペアワークに取り組むことで興味・関心を高め、「聞くこと」「話すこと」の2技能に重点におき、定着の深化を図りたい。

◇【研究授業Ⅱ】3年6組 34名 N・T

授業者	関谷さら
単元名	Lesson5 Section1 (受動態の発展的用法①)
本時のねらい	助動詞・完了形・進行形を含む英文の受動態の理解と活用
教材観	New Treasure のKey Pointsを主教材としている。グループやペアでKey Points の和訳や英訳に繰り返し取りまわせることで、文法事項や構文の単なる「理解」を超えた「定着」を目指している。またその「定着」度合いの確認として、毎時間の終わりに基礎的な和文英訳問題にも取りまかせている。本時では取り扱わないが、本文パートは復習教材(主にDictation)として活用している。
生徒観	本校の中学3年生は6クラス190名おり、うち2クラスは成績上位者が所属するSPコースである。このSPコースは東大・京大・医学部への進学を目標に掲げている。3年6組もSPコースのクラスであり、比較的高い英語力と学習意欲を持っている。帰国子女や天才肌の生徒はおらず、エネルギー豊富とも言い難いが、言われたことをきちんとこなす素直さとひた向きさをもっているクラスである。文法への理解やリスニング力はかなり高いが、1・2年次に(少なくともNT(文法)の授業では)あまりスピーキング活動を行っていなかったこともあり、英語で自分の思いを相手に伝えることは不慣れである。10月にある3週間のニュージーランド研修に向けて「失敗を恐れず、思い切って英語で話してみる姿勢」を身に付けさせることを第一目標としている。
指導観	文法の理解、リスニング力は高いが、アウトプット(とりわけ話すこと)に関してはまだまだ経験不足である。そのため中学3年生のゴールデンウィーク明けごろから、授業の初めに簡単なSpeaking活動を取り入れることを意識している。これらの活動を行うに当たっては、①反応速度の強化 ②+αの一言の習慣化 ③平易な言葉による表現 の3点に重きを置いている。ニュージーランド研修では、基礎的な英語理解はもちろん必要とされるが、それと同様に積極的に自分の思いを英語で表現しようとする姿勢が重要であると考えて。「意外と話せる」という実感を持たせ、アウトプットへの自信につなげていきたい。

【編集 附属校教育研究・研修センター 研究部門長 今宿純男】